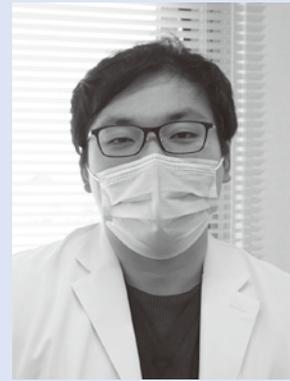


私のカルテ

No. 397

歯科定期受診のすすめ ～骨吸収抑制薬関連顎骨壊死について～

津島市民病院
歯科口腔外科医長大森
おもり
まさむら

●はじめに

日本は2010年より超高齢化社会に突入し、高齢になっても寝たきりにならず、自立した生活を送れる健康寿命を伸ばすための取り組みが進められています。その一つに、骨粗鬆症しゆつしょうせいによって起こる骨折の予防があります。骨粗鬆症と診断されると、内服薬や注射薬で骨密度を改善する治療を行うことで骨折を予防しますが、その治療薬の一部には骨吸収抑制薬関連顎骨壊死という病気を引き起こす可能性があります。

●骨吸収抑制薬関連顎骨壊死とは

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死は、薬剤の副作用で起こる口腔内の病気です。顎骨壊死とは文字通り「顎の骨が壊死する(腐る)」状態です。骨吸収抑制薬とは、主に骨粗鬆症の治療に使用されるビスホスホネート製剤やデノスマブという薬のことで、その副作用として、基本的には口腔内の顎骨のみに発生します。骨粗鬆症以外に、悪性腫瘍の治療で使用されることもあります。

●なぜ起こるか

骨吸収抑制薬を使用されている方で、抜歯やインプラント手術など顎骨に侵襲が加わる処置後の感染をきっかけに顎骨壊死を発症する可能性があります。同じ歯科治療でも、むし歯や歯周病、入れ歯の治療では問題はありません。しかし、むし歯や歯周病が重症になった場合はそれをきっかけに発症することもあります。また、糖尿病や関節リウマチなどの細菌感染を起こしやすい病気があるとさらにリスクは高まります。

●症状

典型的な症状は、歯肉の腫れや痛み、歯の動揺のう、排膿、顎骨の露出などです。痛みがなく無症状に進行するものもあります。重症の場合は、歯や壊死した顎骨が脱落したり、顎骨内にある神経まで感染が広がることで顔面のしびれを引き起こすこともあります。

●治療法について

顎骨壊死の治療法は重症度により異なります。

①保存療法

抗菌性のあるうがい薬で口腔内を清潔になるよう努めます。また、医療機関にて壊死骨の洗浄を繰り返し行います。必要に応じて抗菌薬の内服も行います。

②手術

壊死した骨を手術で除去します。部分的な壊死の場合は単純な除去を行いますが、顎骨の深部まで壊死が広がった場合は顎骨の切除が必要になることもあります。

●発症しないためには

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死は治療が困難なケースもあるため、予防することが最も重要です。まず、骨吸収抑制薬の使用を開始する前に歯科を受診し、口腔内のチェックを受けることをお勧めします。その際、抜歯が必要な歯があれば、薬を開始する前に抜歯を行うことで顎骨壊死の発症を回避することができるからです。また、薬が開始された場合は、定期的に歯科を受診し、歯肉や顎骨の状態のチェックと歯石の除去や口腔衛生指導を受けることも大切です。これにより、抜歯になってしまうほどのむし歯や歯周病になる前に、早い段階で治療をすることができます。

●骨吸収抑制薬開始後に抜歯が必要になった場合

骨吸収抑制薬を使用開始した後に抜歯が必要になった場合、骨吸収抑制薬を一時的に休薬してから抜歯を行うことで、顎骨壊死の発症を予防できる場合があります。その際、薬を処方しているかかりつけ医の先生と連携が必要です。また、抜歯後の傷口を完全に塞ぐ処置も必要で、かかりつけ歯科の先生と相談の上、必要があれば歯科口腔外科にて処置を行うこともあります。

●最後に

繰り返しになりますが、骨吸収抑制薬関連顎骨壊死は治療をしてもなかなか改善しないケースもあり、予防が最も大切です。定期的に歯科で口腔内のチェックやクリーニングを行うことが、顎骨壊死の発症予防だけでなく、ひいては口腔内全体の健康寿命を伸ばすことにも役立ちます。ぜひとも、かかりつけ歯科をつくり、定期的に受診するようにしてください。